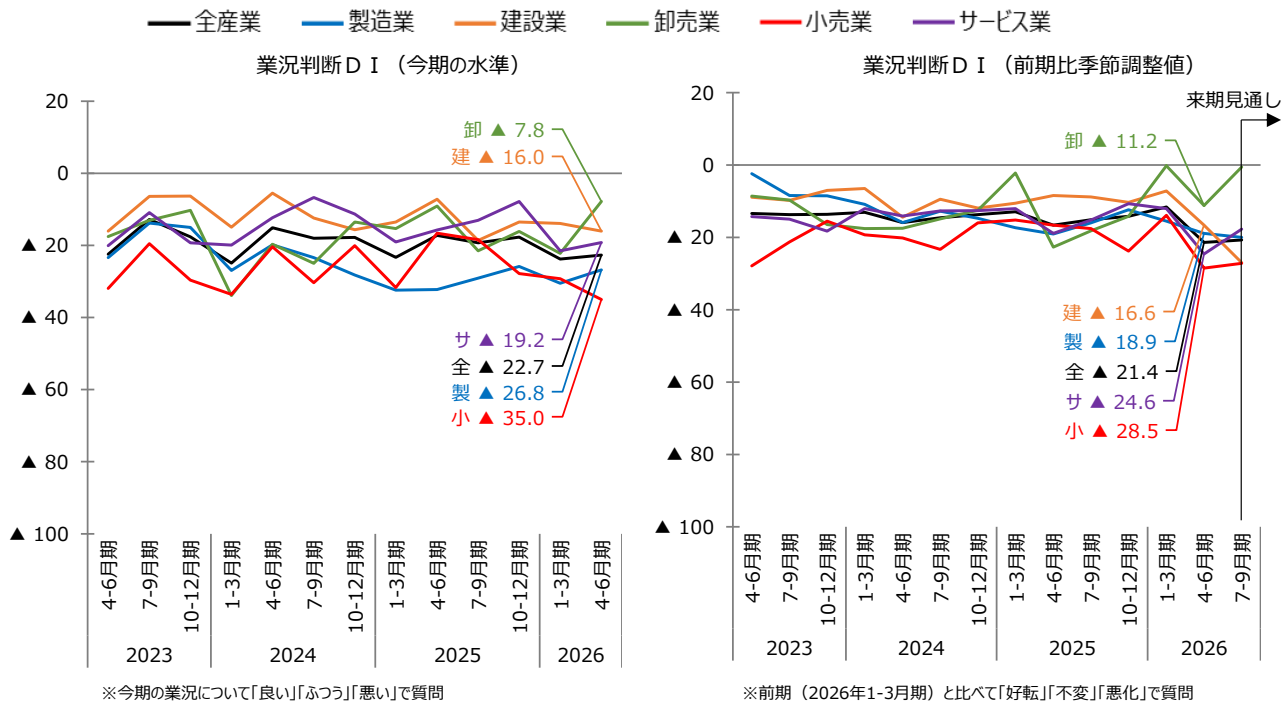


第184回 中小企業景況調査（2026年4-6月期） 北海道

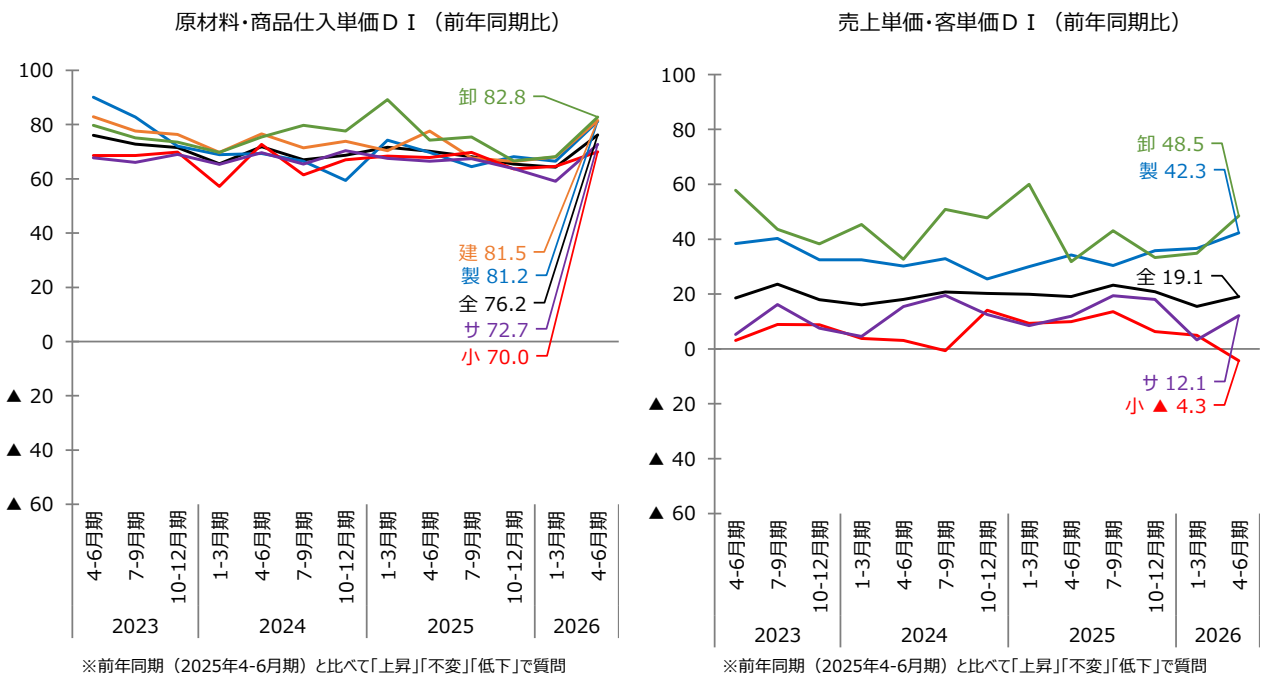
1. 業況感

北海道地域の中小企業の業況判断DI（今期の水準）は、全産業で前期（2026年1-3月期）より1.1ポイント増の▲22.7と2期ぶりに上昇した。産業別にみると、卸売業、製造業、サービス業で上昇し、小売業、建設業で低下した。



2. 仕入単価・販売単価

原材料・商品仕入単価DIは、全産業で前期より11.9ポイント増の76.2と5期ぶりに大幅に上昇した。産業別にみると、すべての産業で上昇した。また、売上単価・客単価DIは、全産業で3.6ポイント増の19.1と3期ぶりに上昇した。産業別にみると、卸売業、サービス業、製造業で上昇し、小売業で低下した。



<調査概要> 調査時点は2026年6月1日、調査対象は中小企業基本法に定義する全国の中小企業

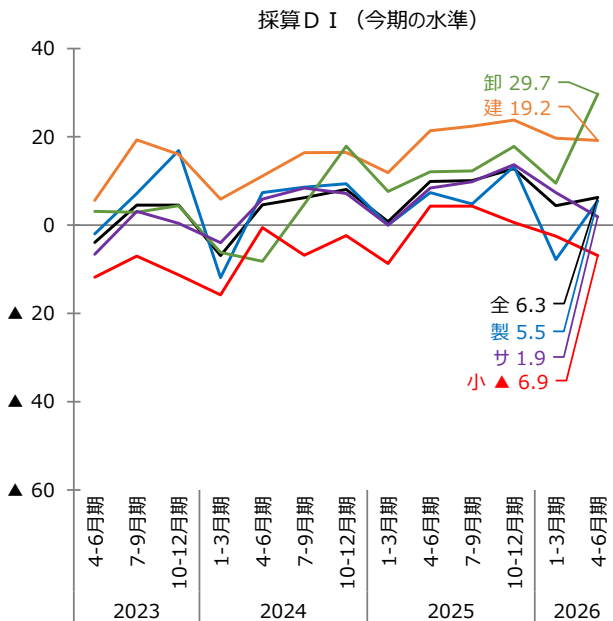
今期の調査対象企業数：18,834 有効回答企業数：17,734 有効回答率：94.2% うち、北海道：711企業

※本資料の集計対象の都道府県は、北海道です。

第184回 中小企業景況調査（2026年4-6月期） 北海道

3. 採算

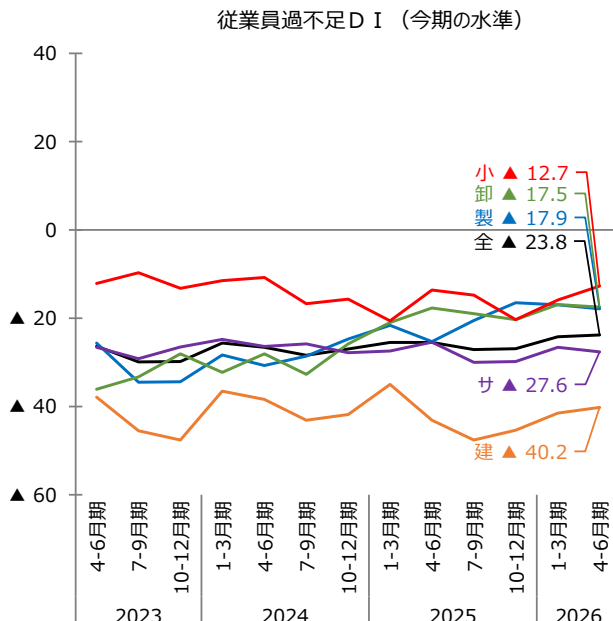
採算DIは、全産業で前期より1.9ポイント増の6.3と2期ぶりに上昇した。産業別にみると、卸売業、製造業で上昇し、サービス業、小売業、建設業で低下した。



※今期の採算について「黒字」「収支トントン」「赤字」で質問

4. 従業員過不足

従業員過不足DIは、全産業で0.4ポイント増の▲23.8と3期連続して上昇した。産業別にみると、小売業、建設業で上昇し、サービス業、製造業、卸売業で低下した。



※今期の従業員について「過剰」「適正」「不足」で質問

5. 北海道の中小企業の声

業況判断の背景		業種
現状	原材料がナフサ由来のため、価格の急激な高騰と購入に制限がかかった。工場の稼働は原材料の輸入量を見ながら行わざるを得ない。納入先からは資材不足の懸念から通常より多く注文が入っている。	製造業 他に分類されないプラスチック製品製造業
	中東情勢の影響が大きく、資材の入手が困難。また、資材の仕入価格が仕入の都度上がっており、価格転嫁がしにくい。見積もり時点よりも実際の発注時点の仕入単価が上がっており、計画利益を確保できない。	建設業 冷暖房設備工事
	今期中東情勢の緊迫化に伴い、石油製品を中心にメーカー各社から値上げ、欠品、出荷制限の案内が届き、値上前の駆け込み需要にも対応しきれず、苦勞している。	卸売業 建築用金属製品卸売業（建築用金物を除く）
	低価格帯の包装資材が軒並み欠品、来月にはラベルシールやレシート、レジ袋の仕入価格が値上げになる。高騰した分を売価に転嫁すると買い控えに繋がりがかねない。今後、売上と利益の両方を維持していけるか非常に不安。	小売業 食料品スーパーマーケット
	フードデリバリーサービスへの掲載を開始し、テイクアウト販売の売上増加を見込んでいる。	サービス業 酒場、ピザホール
見通し	中東情勢の影響により石油由来の材料の入手が難しい状況。価格の上昇は、まだ良い方で、実際入手できない資材もある。6月までは在庫で対応可能であるが、それ以降は見えていない状況。受注はあるが生産出来ない可能性あり。	製造業 自動車部品・附属品製造業
	今のところ大きな影響は出ていないが、中東情勢の悪化が長期化すると、悪影響は避けられないと思われる。	建設業 一般土木建築工事
	新規事業の展開（無人店舗）により、状況は好転の兆しがあるが、リスクを行っており商品購入の為の資金を確保できず、新たな店舗導入が難しい。	卸売業 乾物卸売業
	中東情勢の悪化により、企業・家計への負担は増しており、見通しは暗い。臨機応変に対応していくのみである。高止まりの株価で極めて厳しい状況は続くと思われる。	小売業 他に分類されないその他の小売業
	原材料や仕入価格の上昇が継続しており、経営を圧迫している状況。価格転嫁の必要性は認識しているものの、販売価格への反映によって利用客の減少や売上低下につながることを懸念している。	サービス業 酒場、ピザホール